

オンライン診療実用化への対応に関して

8月19日の朝日放送の報道ステーションで、オンライン診療『品川モデル』が紹介されました（下記のサイト参照）

[オンライン診療『品川モデル』メリットは？医師解説（テレビ朝日系（ANN）） - Yahoo!ニュース](https://news.yahoo.co.jp/articles/f2d9fdae82561ff8f71a30904b1b481b73707a89)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f2d9fdae82561ff8f71a30904b1b481b73707a89>

これは主に、新型コロナウイルス患者で入院ができずにいる、自宅療養者に対して、手の空いている医師が、適時、オンラインにて診療を行おうとする試みです。こういった試みは10年ほど前から海外でもテストが実施されていましたが、スマホがいきわたって、多くの人が簡単に参加できるようになったこと、自宅療養者の急増で、あらためて見直されているシステムです。

この遠隔診療のシステムは、コロナの爆発的な感染拡大で苦しむインドで、すでに国をあげて実行開始されました。インドでは、元々、医師の数が圧倒的に少ないこと（1万人あたり8人、日本は25人）、新型コロナウイルスの影響で更に医療体制が逼迫していることから、ここに来て、AI及びスマホを利用した遠隔医療体制の構築が加速されてきています。2020年8月15日に、インドのモディ首相は、「ナショナル・デジタル・ヘルス・ミッション（NDHM）」の開始を発表し、全国民に保健IDを配布し、その番号を使って、個人医療情報を共通データベース上で管理し、インド全土の医師や医療施設の登録情報を紐づける計画を発表しました。

（参考資料 JETRO地域・分析レポート<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2020/349f2efd8d760d6f.html>）

こういった医療インフラの整備に、高血圧診療も当然必要となってきますが、それに必要な医療用血圧計の需要が加速されることは間違いありません。当社では年間1,200万個以上の血圧計用腕帯を生産しておりますが、この新たな需要に対して増産体制を整えてまいります。今回の新型コロナウイルス対策がきっかけとなり、こういった遠隔診療システムは全世界で適応が加速されるものと想像されており、当社では一年以内に生産数量を15%アップの増産体制構築を目指す予定です。

問い合わせ先 メールアドレス：contact@matsuyard.co.jp